

# 日本経済新聞

9月11日

水曜日

発行所 日本経済新聞社  
東京本社 電話(03)3270-0251  
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪本社 電話(06)6943-7111  
名古屋支社 電話(052)243-3311  
西武支社 電話(092)473-3300  
札幌支社 電話(011)281-3211

## 尾畑酒造、廃校を酒蔵に

### 佐渡で借り受け



廃校になった小学校を酒蔵として再生することで地域資源を守る

尾畑酒造(佐渡市、平島健社長)は廃校となった小学校を改装し、酒蔵を新設する。佐渡市から借り受けた旧校舎にタンクなどの設備を導入。2014年5月の稼働を目指し、酒造りを学べる場としても活用する。佐渡では少子高齢化の影響で学校の統廃合が相次いでいる。使われなくなった校舎を酒蔵に転用することで、地域の資源を活用する狙いだ。

### 来年5月稼働めざす 酒造り研修にも活用

活用するのは佐渡市の南西部に位置する旧西三川小学校。日本海に面し、夕日を望める学校として

知られていたが、生徒数の減少で10年に廃校となり、136年の歴史に幕を閉じた。校舎の再生が可能か検討した尾畑酒造は市の公募や地域住民への説明会などを経て、11年4月に校舎を借り受けた。

酒蔵として再生するため、早ければ年内にも着工する。理科室として使われていた部屋の床をコンクリートにするほか、断熱対策や排水工事を進める。このほか、麹(こうじ)を作る工程に使用する専用室も設ける予定。来春から酒造りができるようにする。初年度は試験的に2400リットル

度の酒を仕込む目標だ。酒蔵は酒造りを学びたい人向けの研修施設としても活用する。麹づくりや仕込みなどを1週間程度勉強し、理解を深めてもらう狙いだ。他の教室

をどのように活用するかは今後、検討する。佐渡市によると、同市の0514歳の人口は10年や7041人と10年前の4分の3に減少した。人口減に加え、04年の市町村合併の影響もあり、小中学校の統廃合が進んでいる。04年4月には小学校36校、中学校16校があったが、13年4月にはそれぞれ24校、14校に減少した。

### 廃校再生 宿泊施設にも

#### 活用拡大、維持管理が課題

新潟県によると、県内の公立小学校は2013年5月に507校、中学校は233校ある。特に小学校の減少が著しく、10年前と比べると2割近く減少した。コミュニティの中心にもなる学校が無くなることは、地域にとって影響が少なくない。NPO法人越後妻有里山協働機構は十日町市や津南町で校舎を改装し、宿泊施設として運営する。個人客のほか、企業研修や学生のゼミにも使われている。「大地の

芸術祭」に関連した作品を展示する美術館もある。ただ、地域振興に詳しい事業創造大学院大学の信田和宏教授は「有効活用されず、そのまま放置されたような校舎も少なくない」と指摘する。校舎の老朽化に伴う維持管理をどうするか、経済的に自立した運営をどう続けるかなど課題は多い。「世代を超えて様々な人が集まり、コミュニケーションをとれる施設として運営していくことが重要」(信田教授)に